

| 学習指導要領 | | スタンダード「基礎」 |
|-----------------|---|--|
| (1) 現代に生きる自己の課題 | <p>自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期は、将来に向けた進路選択など、自己の生き方について悩みながら、自己を確立する基礎を培う時期であることを知る。 ・青年期の身体的・心理的特徴を、第二性徴、心理的離乳、パーソナリティの形成といった概念を通じて理解する。 ・自立した人生を送るためには、アイデンティティの確立が必要不可欠であり、このことが青年期における最も重要な発達課題であることを知る。 ・身近な人間関係を通して、他者とのかかわりにおいて生きることの大切さや他者を一人の人間として尊重することの大切さを知る。 ・現代の倫理的課題として、例えば、非正規雇用労働の増加などを取り上げて、現代の若者の雇用をめぐる諸課題が、同時代を生きる自己の生き方とも密接に結び付いていることを知る。 |
| (2) とし方生き方 | <p>自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。</p> <p>ア 人間としての自覚 人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・哲学、宗教、芸術などを単なる知識の集積として学ぶのではなく、自己の在り方生き方を考える素材として捉えることが重要であることを知る。 ・古代ギリシアにおける、ソクラテス、プラトン、アリストテレスといった代表的な先哲とその思想について、「無知の知」、「イデア」、「友愛」などのキーワードとともに理解する。 ・ユダヤ教の誕生について知るとともに、一神教における預言者の存在や神との契約などの考え方について理解する。 ・イエスの思想について、「神への愛」「隣人愛」などの基本的な概念を理解するとともに、死後に「復活」したイエスを神の子(メシア)とする信 |

| スタンダード「応用」 | スタンダード「発展」 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・第二の誕生、周辺人、モラトリアム、アイデンティティの確立といった概念を通して、青年期の意義と課題について理解する。 ・青年期における自我のめざめについて理解し、自分自身の心理についての考察を深め、自らの心を守る防衛機制の働きについて理解する。 ・青年期にアイデンティティを確立するには、自分らしい生き方を求める個性化と、集団や社会に適応する社会化とを調和させることが重要であることを理解する。 ・他者と共に生きる自己の生き方について、友人や家族など身近な人間関係だけでなく、他の国々の人々とのつながりなどの広い視野に立って考察することが重要であることを理解する。 ・グローバル化の進展を背景とした、日本人としてのアイデンティティの問題などをとおして、自己の生き方にかかわる課題が現代の倫理的課題と結び付いていることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期に関する諸学問の成果や世論調査の結果などの資料を活用して、青年期の意義と課題について説明できる。 ・マズローの欲求階層説などを基に、人間は自分自身を成長、発展させ、自己実現を図ろうとする欲求をもつことについて説明できる。 ・青年期には、自意識の過剰や対人関係における悩みなどを経験し、それらを乗り越えながらアイデンティティを確立していくことについて、エリクソンの考え方を基に説明できる。 ・情報化の進展とともに現実の人間関係の希薄化が進む中で、豊かな人間関係を築くために何が必要かについて、様々な意見を踏まえて自己の意見を説明できる。 ・現代の倫理的課題について理解を深め、自らの在り方生き方を考察する上で、同時代を生きる人々の生き方から適切な手掛かりを見出し、考察を深めることが重要であることについて説明できる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・哲学はより良く生きることを、宗教は人間存在を超えた崇高なものを、芸術は美をそれぞれ希求することで、「人間としての自覚」を深める精神の営みとなることを理解する。 ・古代ギリシアの代表的先哲とその思想について理解し、ソクラテスが「ただ生きるのではなく、よく生きる」ことを説き、「魂を善くする」生き方を主張したことなどを知る。 ・啓示宗教の特徴について理解するとともに、民族宗教としてのユダヤ教の特徴やその歴史的展開について知る。 ・イエスの言行について理解を深めるとともに、イエスの死後、パウロらの伝道によってキリスト教が世界宗教として広がる基礎が築かれたことを | <ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想や優れた芸術作品などから多様な価値を学び取り、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義について主体的に考察し、自己の考えを説明できる。 ・古代ギリシアの自然哲学者から新プラトン主義に至る思想的な流れを理解し、神話的な世界観を脱して、理性によって自然や人間の本質を追究したギリシア哲学の展開について説明できる。 ・一神教徒と多神教について、発祥した地域の自然条件や社会的背景などに触れながら、その相違点を説明できる。 ・パウロの原罪の思想にみられるキリスト教の人間観について理解し、人類愛の実践を説くキリスト教の精神は普遍的な価値をもっていることを説 |

| 学習指導要領 | スタンダード「基礎」 |
|--|---|
| <p>イ 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> | <p>仰が生まれてキリスト教が誕生したことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教の誕生について知り、ムハンマドの言行や「六信・五行」などの理解を通して、ムスリムの日常生活や基本的な価値観を理解する。 ・仏陀の生涯について知り、仏教の説く「縁起」の思想や、日本人の生活の中に定着している仏教文化について理解する。 ・孔子や孟子の言行について知り、孔子が説く他者を愛する心や思いやりとしての「仁」や、他者を敬う態度やふるまいとしての「礼」について、その今日的意義について理解する。 <p>・古代日本人が、自然神や英雄神などの多様な神々を信仰の対象とし、八百万神が共存する世界観を有していたことについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の自然観は、モンスーン型の気候を背景に形成され、自然への畏敬の念や自然と融合した生活が重視されてきたことを知る。 ・我が国における仏教の受容について、聖徳太子による仏教導入、国家仏教の成立、日本独自の仏教の発展、民衆の暮らしと仏教のかかわりなどについて知る。 ・仏教とともに大陸から伝来した儒教は、江戸時代になると幕藩体制を支える学問として重用され、封建的な身分秩序を思想的に根拠付ける役割を果たしてきたことを知る。 ・仏教や儒教のような外来思想に対して、「万葉集」や「古事記」といった我が国独自の古典の研究を基礎として江戸時代に発展した国学の成り立ちについて知る。 ・江戸時代の蘭学や洋学の発展、明治時代における天賦人權論や民約論の広がりなどを基に、西洋思想が我が国の近代化に与えた影響について知る。 |

| スタンダード「応用」 | スタンダード「発展」 |
|--|--|
| <p>理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム社会における相互扶助や共同体の在り方など、聖俗一致を基本とするイスラム教の特徴について理解する。 ・仏陀の説いた「四苦」「八苦」「煩惱」などの諸概念と、それらを克服し、涅槃に至る方法としての「八正道」について理解する。 ・孔子の教えについて理解するとともに、孟子の「性善説」と荀子の「性悪説」との比較等を通じて、両者の人間についての見方や考え方の相違について説明できる。 <p>・古代日本人が多神教的な宗教観をもち、自然のように清らかな、神に対していつわることのない純粹な心（清明心）を尊んでいたことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和辻哲郎が唱えた「風土」の考え方を基に、モンスーン型の風土に生きる日本人の自然に対する受容的、忍従的な性格について理解する。 ・平安仏教における最澄と空海の思想の相違や、鎌倉新仏教における自力と他力の信仰の相違などに着目して、我が国で独自に発展した仏教の各宗派の特徴的な考え方を理解する。 ・江戸の官学としての朱子学の考え方を理解するとともに、それに対する陽明学や古学、古文辞学による批判を踏まえて、我が国で独自に発展した儒学の特徴について理解する。 ・我が国における国学の発展について、賀茂真淵による万葉集の研究や本居宣長による古事記の研究を中心に、「もののあはれ」や「真心」を重視した人間の在り方生き方について理解する。 ・我が国における近代化の特徴について、西洋文化の受容という観点から、「和魂洋才」の発想や、福沢諭吉の「実学」、内村鑑三の「二つのJ」などの考え方について理解する。 | <p>明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教の成立過程とその変遷について理解し、同じ一神教であるユダヤ教、キリスト教と比較して、その共通点や相違点を説明できる。 ・仏教の説く人間観について理解し、「中道」や「慈悲」の教えを实践する生き方について、その現代的な意義を説明できる。 ・儒教の成立から朱子学、陽明学の発展に至る中国思想の流れを理解し、望ましい人間関係を構築しながら社会生活を営み、経世済民を実現するための様々な考え方について説明できる。 <p>・古代日本人の宗教観や人間観について、「古事記」や「日本書紀」、「万葉集」などの記述を踏まえて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の自然観の形成について、砂漠型や牧場型の風土との比較や、自然を神の被造物と捉える一神教的な考え方との比較を通じて説明できる。 ・古代から現代に至るまでの我が国における仏教の歴史的展開について、代表的な人物とその思想を踏まえて理解するとともに、仏教の文化的な影響について説明できる。 ・江戸時代の武士階級における儒学の定着と発展に対置する形で、町人や農民に広がった新たな考え方として、石門心学や報徳思想、自然世などについて理解する。 ・古代から近世に至る仏教や儒教等の外来思想の受容という歴史的脈の中で、日本固有の精神の究明を目指した国学がどのような形で発展したのかについて説明できる。 ・新渡戸稲造の「武士道」や夏目漱石の「自己本位」の考え方を事例として、国際社会に生きる日本人としての在り方や日本人としてのアイデンティティについて説明できる。 |

| 学習指導要領 | スタンダード「基礎」 |
|---|--|
| <p>(3) 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>ア 現代に生きる人間の倫理 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。</p> <p>イ 現代の諸課題と倫理 生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理</p> | <p>・ルネサンスにおいて、古代ギリシア・ローマの文芸復興が図られ、人間中心主義の文化が形成されたことや、ルターやカルヴァンの宗教改革によって、教会の権威ではなく個人の信仰心を基礎とする考え方が広まったことを知る。</p> <p>・コペルニクスやガリレイ、ニュートンの考え方が近代科学の萌芽となり、宗教的な世界観からの転換を促したことを知るとともに、学問的方法論としての帰納法や演繹法について知る。</p> <p>・民主社会を支える基本概念として社会契約説があることを知り、自由で平等な個人が国家や社会を形成する過程について、ホッブズ、ロック、ルソーの基本的な考え方について知る。</p> <p>・近代市民社会の発展に伴って生じた不平等や貧困などの諸課題に対して、功利主義や社会主義の思想家がそれぞれの視点で問題の解決を図ろうとしてきたことを知る。</p> <p>・近代の理性中心な考え方を問い直し、個人が自己の主体性を回復することの重要性を説いた実存主義の考え方について知る。</p> <p>・身近なボランティア活動を事例として、社会参加と奉仕の意義について考察し、主体的に社会に参加することで得られる喜びや生きがいについて知る。</p> <p>・人間は社会的動物であり、社会を構成する人々と共に幸福を分かち合いながら、自己実現に努めていくことが重要であることを知る。</p> <p>・バイオテクノロジーや先端的な医療技術の発展に伴って生じる、人間の生命をめぐる諸課題を体系的に考察しようとする生命倫理の考え方について</p> |

| スタンダード「応用」 | スタンダード「発展」 |
|---|--|
| <p>・人間が自らの自由意思で自己を形成したり、自己の内面における信仰に忠実に生きることに人間の尊厳の根拠があることについて、ルネサンス期の思想家や宗教改革の指導者らの言説を通じて理解する。</p> <p>・自然や科学技術と人間とのかかわりについて、F.ベーコンとデカルトの考え方を対比して理解するとともに、近代科学を導いた西洋的な自然観や合理的精神について理解する。</p> <p>・ホッブズ、ロック、ルソーの三つの社会契約説について、国家（政府）の成り立ちや個人の権利についての考え方の相違に着目し、社会と個人のかかわりに焦点を当てて理解する。</p> <p>・ベンサムやJ.S.ミルが功利主義の考え方を提唱し、「最大多数の最大幸福」を追求することで市民社会の諸矛盾を解決しようとしたことを理解する。</p> <p>・自己の生き方を自ら選択し決断する、主体的な人間の在り方について説いたキルケゴールやニーチェの考え方を理解する。</p> <p>・社会的弱者への奉仕活動に尽力したマザー・テレサの生き方などを通じて、現実の社会生活の中で人間尊重の精神を具現化することの困難さや尊さについて理解する。</p> <p>・人間の自己実現は社会生活の中で達成されることや、人間の生きがいと社会貢献について、神谷美恵子の事例などを通じて理解する。</p> <p>・生殖技術や出生前診断、生命維持治療など、医療技術の進歩によって生じる新たな課題を多面的に捉え、従来の生命観のみでは対処できない問題</p> | <p>・ルネサンスや宗教改革を先導した人々の考え方や、モリス、カントの思想等を具体的に例示して、近代的な個人を特徴付ける自由に対する意識及び人間の尊厳について説明できる。</p> <p>・科学革命の先駆者や、イギリス経験論、大陸合理論の系譜に連なる先哲の思想など、現代の科学技術の成立とその発展に寄与した考え方について説明できる。</p> <p>・西洋における民主社会の形成とその発展について理解するとともに、社会契約説の考え方を踏まえて、現実の市民革命等の歴史的事象を理論的に説明できる。</p> <p>・ヘーゲルやマルクス、功利主義の思想家などが、近代市民社会の諸矛盾を解決するために打ち立てた思想や考え方について、当時の社会状況を踏まえて説明できる。</p> <p>・実存主義を有神論的な実存主義と無神論的な実存主義に分類して捉え、その相違点と共通点を踏まえて、主要な思想家の考え方を説明できる。</p> <p>・サルトルのアンガージュマン（社会参加）の考え方などを援用し、積極的な社会とのかかわりの中で人間は自己の在り方を選択していくということを説明できる。</p> <p>・ロールズやA.センの考え方などを基に、社会全体の幸福を増大させる、公正な社会を実現するための諸原理について説明できる。</p> <p>・科学技術の発達が生じる人間の身体観や生命観に与える影響について、例えば脳死と臓器移植の問題や、生命の質(QOL)と生命の尊厳(SOL)の問題</p> |

| 学習指導要領 | スタンダード「基礎」 |
|--|--|
| <p>的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> | <p>て知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題の現状について理解し、世代間倫理の視点から、現在世代の活動の結果が、将来世代の生存条件に大きな影響を与えることを知る。 ・我が国における家族や地域社会の変容について、核家族化や家族機能の外部化、コミュニティ機能の低下などの現状について知る。 ・多様なメディアを通じて、日々、大量の情報が伝達・消費されている現代の情報社会の現状とその特徴について知る。 ・グローバル化の進展とともに、文化摩擦や外国人差別等の問題が発生するなど、異なる文化や宗教を理解する重要性が高まっていることを知る。 ・国際社会における紛争や民族対立等を抑制していくためには、国際機関との連携を通じて、世界各国が協調して対応する必要があることを知る。 |

| スタンダード「応用」 | スタンダード「発展」 |
|---|--|
| <p>が生じていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題を考察するための土台として、地球の有限性、世代間倫理、自然の生存権の3点を重視した環境倫理の考え方を理解する。 ・少子高齢化が急速に進展する中で、子育てや介護の問題が、家族や地域社会を越えて、国の重要な政策的課題になっていることを理解する。 ・情報メディアを使いこなすだけでなく、情報を主体的に取舍選択し、批判的に読み取るメディアリテラシーの重要性について理解する。 ・サイドのオリエンタリズムの考え方などを踏まえて、異文化に対する偏見や固定的な思考を排除することが必要であることを理解する。 ・現代における国際問題の解決を図るためには、地球的な視野に立った国際協調の精神が不可欠であることを国際憲章などを基に理解する。 | <p>などを事例として説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題の解決に向けて、これまでの国際的な取組を踏まえながら、環境倫理や国際協調の視点に立った改善策を提案できる。 ・少子高齢社会の到来が、家族の在り方や人々の働き方、地域社会の役割などを改めて見直す契機となることについて説明できる。 ・メディア情報が生み出すステレオタイプや、疑似イベントの危険性など、負の側面にも触れて、情報社会の進展がもたらす影響を説明できる。 ・異なる文化や宗教をもつ人々が、相互の差異を認め合い、共生していくことを指向する多文化主義の考え方について説明できる。 ・人類全体の福祉と国際平和の実現に向けて、我が国に求められる国際貢献の在り方などについて、事例を挙げて説明できる。 |